

# 調和のとれた 新しい社会の姿を提案する



## 混迷を深める世界で複雑化、多様化する 社会課題の解決を担う

グローバル化の進展と世界的な経済成長の低下傾向、さまざまな格差の拡大とそれをめぐる対立、テロの増加、いわゆる極右や「自国第一主義」の台頭など、世界はますます混迷の度を深めています。普遍的と考えられてきた自由や民主主義といった概念さえ、全面的な支持を得にくくなってきています。人々の価値観やライフスタイルも多様化し、社会課題や社会ニーズはますます複雑化しています。そのようななか、日本は世界に先駆けて、経済の成熟プロセスを経て人口減少局面に入り、構造的に経済成長が制約される時代となりました。

こうした環境下で社会が「持続可能な開発」を実現するには、環境や経済、コミュニティ、そして人の暮らしといった要素が調和していることが重要であると考えます。そして、前田建設はそれを担う企業でありたいと考えます。

## 社会課題の解決にいち早く着手

前田建設は、わが国初のコンセッションである仙台空港、またわが国初の道路コンセッションである愛知県有料道路の運営を担っています。こうした社会に先駆けた取り組みは、前田建設が十年以上前から建設業の将来の変化を見据え、インフラに携わる企業として社会にどのような価値が提供できるかを考え、準備を整えてきた成果です。政府の財政負担軽減と地方創生の解決に資するコンセッション事業を、前田建設ではCSV経営の代表事例と位置づけ、今後も取り組んでいきます。

一方、内的な社会課題の解決に向けて働き方改革を実現すべく、昨年には従業員満足度（ES）調査を実施して課題を明確化し、今期には課題解決にあたる専門組織を設置して活動を開始しました。



## 社会のグランドデザインを描く

前田建設では、職員一人ひとりが社内外の社会課題への理解を深めるよう、学習体制を整えています。学識者や専門家の知見を得て、全社員が社会課題を学ぶ「学びサイト」をオープンする他、事業本部ごとにCSV推進ワーキングを設置してCSV-SSについて議論を深め、その成果を業務に位置づける取り組みを始めています。

前田建設は、このような活動を通じ、当社の一人ひとりが調和のとれた社会の姿とはどのようなものかを考え、これを、仕事を通じて追求し続ける個人とその集合体である会社を目指します。前田建設では、それはさまざまな相手と真のパートナーになるための活動の推進と考えています。

## 未来への起点となる建設会社へ

前田建設は、社会課題の解決に取り組み続け、未来から必要とされ信頼される企業を目指します。そして事業を通じてより良い社会を創るリーディングカンパニーの一つになりたい、と決意しています。

単に未来予想図を描くのではなく、調和のとれた社会を我々が自らの手で創りたいというはっきりした意志を持つこと、それがやりがいと活気に満ちた職場をつくり、さらに社会課題を解決する新たな事業を生み出すと考えます。

代表取締役社長

前田操治